



おぐら
尾倉

校訓
自主
創造
協力



令和4年6月16日(木)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心もち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
 - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
 - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

2年生数学科研究授業がありました。

6月10日(金)に2年2組で数学の研究授業が行われました。これは、本校が昨年度指定され、本年度も学校の取組として継続している「授業づくり共同研究」の一環としての授業です。この「授業づくり研究」は、子どもたちにとって「わかる授業づくり」を目指し、その成果を尾倉中学校で共有するというものです。つまり、子どもたちが「わかった」「できた」と実感できる授業を目指していくものです。私たち教師が、自分の授業を振り返りながら、よりよい授業を目指し、子どもたちに還元していきたいと考えています。二元一次方程式では、解がひとつに定まらずにいくつもあることに対して、二元一次方程式を組み合わせると連立方程式にし、共通の解が連立方程式の解であることを理解します。また、加減法や代入法を用いて、2つの未知数のうち1つの未知数を消去することで、既習の一元一次方程式に帰着させて、連立方程式を解くことにつながることを理解します。文字を1つで立式する一元一次方程式では表現しにくいやや複雑な数量関係の問題も、文字を2つ用いて連立方程式で表すことで2つの未知数の関係が分かりやすく、活用の場面も広がっていくことになる。日常生活の事象を数学的な見方にとらえ、連立方程式を用いて表現・処理し、解決していくことで、数学の有用性を感じることができると考えます。



学年・学級	第2学年2組	期・学年	単元 2章 連立方程式 連立方程式の解き方 (3時間/全5時間)	日付	令和4年6月10日	場所	2年2組 教室	授業者	隈部 暁
-------	--------	------	--	----	-----------	----	---------	-----	------

主眼

- ・加減法を使って連立方程式を解く場合、係数をそろえなければいけないということに気づかせる。
- ・両方の式を変形するときに、最小公倍数を見つけて係数をそろえればよいことを理解できる。

めあて

どんなときでも加減法で解けるのだろうか。

まとめ

両方の式を変形させるときのポイントは、係数の最小公倍数にそろえることである。

準備

教科書、ノート、振り返りシート、大型テレビ、タブレットPC

主眼的・対应的で深い学びの工夫

- ・今まで習ってきた方法では解けない問題がでてきたときに、原点に戻って、最初に習った連立方程式の解き方を確認し、加減法を使うために準備したことを説明する。
- ・班活動を行い、ボードを使って考えの共有をする。ソーシャルディスタンスを保ちながら、オンライン授業に参加している生徒も話し合いができる環境を作る。

本時の流れ

① 前時の振り返り

どちらかの式を何倍かして解く連立方程式の解き方を振り返る。

② 本時の課題に取り組む。

片方だけの式を変形しても文字を消去できない連立方程式を解く。

③ ボードを使って、班員の考えを共有する。

文字を消去するために係数をそろえることに気づき、両方の式を変形する。

【思】係数をそろえるポイントを説明できる。(発言・ボード記入)

④ 本時の学習のまとめと振り返りを行う。

係数の最小公倍数を見つけて、係数をそろえればよいことに気づかせる。

主な学習成果 (準備 (評価方法))

どっちの文字にそろえる?

文字を消去するためにはどうすればよかった?

絶対的に「最小公倍数」でないといけないのか?

板書